２０１７年衆議院選挙を振り返って

成果・課題・教訓について

２０１７年１２月２０日

１０区野党統一候補実現を求める会

1. ２０１７年衆議院選挙はどういう選挙だったのか

安倍首相の「もりかけ疑惑隠し解散」と民進党前原クーデターにより野党が分断される中、自公が３分の2の議席を占め改憲勢力が８割を超えるという結果になってしまいました。

　しかし、振り返ると6月の野党4党合意や共謀罪をめぐる全国的な反対運動、もりかけ疑惑徹底究明を求める国民運動の中で明らかに安倍内閣は追い詰められていました。

転機となったのは東京都議選における「豊洲問題」を利用した都民ファーストの会の「小池旋風」、北朝鮮のミサイルを最大限利用してＪアラートを鳴らし続けて危機を演出した安倍内閣支持率回復戦術、最後は支持率低迷を打開しようと民進党を希望の党に丸ごと身売りしようとした前原の乱が今回の選挙結果を生み出したものであり、決して本格的に安倍内閣の支持が回復したと言えるものではないのは明らかです。

　土壇場での大どんでん返しで2年間積み上げてきた野党共闘の実積が一気に突き崩されたかに見えましたが、小池の「排除」発言などもあり民進党の中から希望を拒否する人が現れ、枝野氏の立憲民主党立ち上げ、共産党の野党統一をうながす「候補取り下げ」、全国の市民運動のバックアップにより各地で野党共闘の動きが復活してきました。特に北海道、新潟、長野で大きな成果がありましたが、残念ながら全国的なものになり切らなかったことはしっかり総括する必要があると思います。北海道では12選挙区全部で統一候補が実現し、選挙区・比例併せて20の定数のうち8人の当選を勝ち取ったことは大きな意味がありました。残念ながら共産党の畠山さんの議席を死守することができなかったことは痛恨の極みでありました。

1. １０区公明党候補との戦いはどういう位置づけだったか

　財界札幌12月号で稲津陣営の裏事情が報道されています。10月1日の稲津を励ます会に菅官房長官、石井国土交通大臣、斎藤農林水産大臣が出席したことをもって、自民党の関係者が「10区内の問題はこの3人が動けば全て解決する。」と発言しているのが象徴的でした。その後も安倍首相を始め公明山口代表は2回、小泉進次郎、高橋北海道知事、岸田外務大臣など次々と幹部を投入するなど前代未聞の選挙戦を展開しました。

　創価学会も全道・全国から動員をかけ、栗山の商店街のあるお店では1日に何回か「稲津御願いします」と運動員がやってきたといい、選挙中10回以上学会の人から依頼を受けるのは当たり前という状況でした。（選挙期間中は岩見沢のホテルはいつも満室状態で稲津本人も泊まれないこともあったと書いてあります）

　安倍自公政権は10区を全国で最重要選挙区の一つと位置付け文字通り最大限の勢力をつぎ込んできました。前回の得票では民進、共産票が稲津の票数を上回っていただけに残念でなりませんが、安倍内閣が総動員をかけて513票の差しか付けられなかったと理解する方が正解ではないでしょうか。もしここで神谷候補が勝利し、稲津を落としていれば自公連合にくさびを打ち込み安倍内閣の屋台骨を揺るがしていたことは間違いありません。

そういった意味では我々の側に正確な情勢認識が不足しており、稲津陣営に充分対応できていなかったと言えるのではないでしょうか。

1. 野党統一は効果を発揮したか

　10区において、実質的な野党共闘は選挙戦に入ってから実現しました。「野党統一候補実現を求める会」は本年2月11日に発会して以降数回にわたり正式の申し入れをし、機会を見つけては事務所を訪問して懇談を重ねてきました。その都度、神谷さんは嫌な顔一つせずお話をしていただきましたが、残念ながらギリギリまでゴーサインをうることができませんでした。

解散に直面してようやく「求める会」に「共産党との橋渡しをお願いします」との言葉をいただきましたが直後の前原のクーデターで又足踏みをさせられることになりました。

　困難を乗り越えて、道段階では10月5日「戦争させない市民の風」が間に入り、立憲民主党と共産党、社民党4者間で協定書を結び本格的な選挙戦に突入しました。

10区ではその後も話し合いを持ちましたが最後まで政策協定の締結までは出来ませんでした。本格的な野党共闘が動き始めたのは１０月１０日告示以降、出陣式では共産党の出番はありませんでしたが候補を下りた女鹿さん、共産党南空知地区委員会上田委員長も顔をそろえ神谷陣営と握手をかわすところから始まりました。その日の岩見沢駅前での街頭演説から女鹿さんがマイクを握り、力強いエールを送って以降、17回にわたって女鹿さんが神谷さんと同じ街宣車で訴えたことは、他の選挙区よりも進んだ経験と言えるかもしれません。

　10区において野党共闘が出来たことは歴史上初めての事であり、当事者同士も初めての経験でした。どういう効果があったのかは検証が必要ですが、この信頼関係は今後に生かされることは間違いないと判断しています。

　又、野党共闘がギリギリまでできなかったこと、政策協定が出来なかったことは今後その原因と与えた影響を検証していくことが必要と思います。

1. 選挙運動の中で有権者の心をとらえられたか

　本来選挙戦はお互いの政策を戦わせ有権者の支持を仰ぐものですが、特に安倍内閣以降顕著なのは、本音を隠して耳当たりの良いフレーズを並べながら、選挙が終わってから信任を得たとばかり隠していたことをゴリ押ししてくることが常套手段となっています。

私たちはその中で単に安倍批判だけではなく、国民の求めていることを野党共闘候補と一緒に付け合わせをし、心に響く政策として訴えていくことが必要となってきます。

　今回あまりにも選挙戦が短かった事、市民と野党間の政策協定ができなかったことでも、訴えていく政策が不足していたのではないかと感じています。全道・全国の課題だけではなく地域の課題での統一政策を日常から作っていく努力をしていかなければ急な選挙には対応できないと思います。

　農業問題、高齢者対策、ＪＲローカル線廃止問題、過疎対策など重要課題が目白押しです。一致する課題での協議、共闘を政党間や各種団体間で実施して行くことが何よりも大事なことになるのではないでしょうか。

1. 立憲民主、共産、市民団体各々の取組はどうだったのか？

　選挙終了後「求める会」では両党や民進党との話し合いをまだ持っていません。それぞれの党は今選挙総括を行っているところだと思いますが、ここでお互い付け合わせを行うことは、次回野党共闘候補を必ず勝たせるうえで必要なことであります。

今回死に物狂いでなりふり構わずやってきた自民・公明（創価学会）に対して有効な対応が出来たのか？情勢判断は正しかったのか？司令塔を決めお互い課題を共有するためにどうしたらいいのかを忌憚なく話し合いをする機会を作るよう働きかけを行っています。

　市民団体は日常活動が命です。日ごろからどういう活動を展開しているのかが大事であり、それを通じて市民や町民と深い繋がり作っていくことが本来の役割と言えます。

　北空知では、安保法廃止や共謀罪廃案の取組だけではなく農政問題、婦人問題、原発学習会、原水爆禁止、重税反対、ＪＲ廃線反対、じん肺、子どもの教育など広範な取組を行ってきています。

南空知でも安保法廃止の定例街頭宣伝、ＴＰＰ締結阻止集会、共謀罪廃止1市4町トラックキャラバン、小森陽一氏を呼んでの憲法学習会など各々創意工夫を凝らした取組が行われてきました。その積み重ねが空知全体で神谷氏への投票が稲津を上回った力になっていると思います。

　留萌管内では残念ながら全部の市町村で稲津が上回っていることは残念な結果ですが、極端に差が大きいわけでもありませんので今後の課題として検討していきます。

1. １０区野党統一候補実現を求める会の存廃について

　今回紆余曲折がありながらも野党統一候補が実現しました。この名称から言うと、私たちの役割は終了したと言えるでしょう。しかし改憲勢力が国会の８割を超える状態をまたしても許してしまいました。

　この野党共闘を今後は維持発展させる役割が新たに生まれたと言えるのではないでしょうか。この会をいったん廃止するのか、継続して新たな名称と役割で再スタートするか今後の皆さんの議論に委ねたいと思います。

　つきましては、今回の選挙について、そして今後の方針について皆さんのご意見をお伺いして、来年遅くないうちに「１０区野党統一候補実現を求める会」としての最後の総会を開催したいと考えています。

　南空知で初めて生まれた野党共闘の火を絶やさず、新たな戦いに発展させるため、是非皆さんのご意見をお寄せください。送付先はＦＡＸで事務局宮森宛御願い致します。

　　ＦＡＸ番号　０１２６－２３－５７４９　宛先　宮森　清